

質的研究法を学びほぐす

— 障害児・者教育の視座から —

企画/司会/話題提供：生田邦紘（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

企画/話題提供：呉文慧（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

話題提供：楠見友輔（信州大学教育学部）

指定討論：横山草介（東京都市大学人間科学部）

企画趣旨

2022年9月、国連障害者権利委員会は、日本に対して特別支援教育制度の改善を目的とした教育政策を進めるよう勧告した。日本の特別支援教育がどうあるべきかを議論することは、今日の重要なテーマであるといえる。なかでも、障害児・者にとっての学びとは何か、どのように学んでいるのかを議論することは不可欠である。しかし、障害児・者の学びを捉える質的研究に取り組むとき、従来の方法論にはいくつかの点で困難がある。たとえば、発話のない重度の障害児・者の学びをどのように捉えるのか十分に検討されていない。従来のインタビュー方法や分析方法は、障害のない人を対象として設計されているという問題がある。そのため、障害児・者の学びを検討するためには、従来の質的研究法をそのまま適用するのではなく、質的研究法の枠組みを柔軟に更新していくこと、すなわち「学びほぐす（Unlearning）」ことが必要となる。本シンポジウムでは、3名の研究者が障害児・者の学びを捉えることを試みた質的研究法の可能性と限界について報告する。そのうえで、どのように質的研究法を学びほぐしていくのかを議論したい。

話題提供1：軽度知的障害のある学生の学びをナラティブで捉える（生田邦紘）

軽度知的障害のある学生の「学びほぐし（Unlearning）」について報告する。福祉事業型「専攻科」の学生は、入学当初「普通」に強くこだわっていたが、次第に「普通」の意味が変容し、2年間をかけて「普通」へのこだわりが低減した。この長期的な「学びほぐし」の過程を検討するため、学生1名と先生（職員）3名に1対1の半構造化面接を行った。分析は、ナラティブ論を用いて、学生と先生の語りを重ね合わせて分析した。学生が上手く言葉にできなかったエピソードについて、先生の語りを重ねることで、学生の学びを一つの物語として分析できた。その反面、物語が複雑になりすぎないよう、いくつかの点を捨象したことが課題となった。この課題を踏まえて、学びのプロセスの複雑さを捉える方法論の一つとして、仮定法で語られる可能世界の物語に着目し、その可能性について議論したい。

話題提供2：特別支援学校の授業はいかなる主体によって進められるのか？

（呉文慧）

特別支援学校の教師がASDのある生徒との社会的相互作用をどのように成立させているのかを検討した。まず特別支援学校高等部に5回のフィールドワークを行い、2人の教師とASDのある生徒の社会的相

互作用場面を撮影した。そして円滑な社会的相互作用が妨げられる「不調」場面を抽出し、10分のビデオクリップを作成した。最後に対象教師と映像を見ながら対話的にインタビューを行った。インタビューデータはベナーの解釈学的現象学を用いて分析した。結果として、教師は、教師や生徒、そして「物」というさまざまな主体の意図や特性を満たす「枠」を生成することで学生との社会的相互作用を円滑に行っていることが明らかになった。本発表を通じて、「物」の主体性がより程度の重いASDのある生徒の学びや教育を捉える新たな視座をもたらす可能性を議論したい。

話題提供3：自身の研究法を振り返る（楠見友輔）

筆者のこれまでの研究で用いた方法を省察的に分析する。対象とする研究は、楠見・高津・佐藤(2021)「知的障害生徒が教室談話に参加する過程」『発達心理学研究』(授業のビデオ記録と反-個人主義に立つ教室談話分析)、楠見(2022)「健常児との交流の語りで生起する軽度知的障害児のアイデンティティ」『質的心理学研究』(活動のビデオ記録、再生刺激法インタビュー、記述的現象学的アプローチ)、Kusumi(2022)「Actualizing concept without language」『International Journal of Qualitative Studies in Education』(教師へのインタビューの物のエージェンシーに注目した回折的分析)である。筆者が、どのような問題関心から方法を選択したか、研究の結果から、それぞれの方法にどのような課題を見出したのかを説明する。

Unlearning Qualitative Research:

From the perspective of the education of children and persons with disabilities

Kunihiro Ikuta (Kobe University), Organizer, Moderator and Presenting Author

Bunkei Kure (Kobe University), Organizer, Presenting Author

Yusuke Kusumi (Shinshu University), Presenting Author

Sosuke Yokoyama (Tokyo City University), Discussant

Language: Japanese